



目黒区立目黒本町福祉工房1階 福祉ショップさんまるしえ 6月25日オープン

目黒本町福祉工房併設福祉ショップ 「Sun Marche (さんまるしえ)」 開店報告

工賃アップ

6月25日、目黒区からいたるセンターが業務運営委託を受けた福祉ショップがオープンしました。目黒区内にある障害者福祉施設で作られた自主生産品の展示販売と喫茶の提供、その他障害者福祉施設の利用者工賃向上に向けた取り組みを事業内容とするショップです。目黒区内には16の障害者福祉施設があり、その内の14施設から生産品の提供を受けています。自主生産品は食品と物品に分けられます。食品はパン、焼き菓子、おはぎ、おこわ、日替わり弁当等があります。物品は革製品、クラフト製品、スウェーデン刺繍小物、ビーズ小物、キャンドル、陶器、ステンシル布製品等を取り扱っております。喫茶はコーヒー、紅茶、緑茶の他リンゴジュースを提供しています。店舗は目黒通



目黒区立目黒本町福祉工房の外観

りに面しています。10坪強の広さがあり、その中に14施設の商品がにぎやかにレイアウトにされています。オープ当日は、青木目黒区長、谷山理事長によるテープカットが行われ、沢山のお客様が来店され、食品はすべて完売いたしました。オープンにあたり、多くの職員の方にお力添え頂いた事に対し、この書面に御礼申し上げます。

パン工房「PUKU PUKU」

夏季限定

季節に合わせて

パン「工房PUKU PUKU」の新作商品です。そして、冷やしパンも好評発売中。夏バテ時にも手軽に食べられ予防にもなります。イベント情報や新作パンの紹介をブログにて配信しています。(アドレス左下段記載)



ホワイトじゃがサラダコロネ 157円



アイスサンド 210円

<http://itarunopanouentai.blog77.fc2.com/>

喫茶も充実

店はゆったりとしたくつろぎのスペースになっています。



冷やしパン各種 157円～

冷やしパン 今年も好評発売中



氷シャリシャリ(ジンジャー味) 262円

自主生産品販売

常設販売

あ けほの作業所では、事務室前に常設の自主生産品販売コーナーを設けています。地域の方をはじめ見学者の方や保護者の方にも好評です。一度作業所まで足をお運びください。
団体の見学の場合、ランチとしてタイカレーの提供もできます。(要予約)

にぎやかな風のお知らせ

8月12日をもちまして、一旦店を閉めさせていただきました。今までご利用いただきありがとうございました。また、準備が整いましたらお知らせいたします。今後ともよろしくお祈りします。

いたる広報委員

発行責任者=谷山 哲浩
社会福祉法人いたるセンター
〒167-0032
東京都杉並区天沼1-15-18
TEL: 03-3392-7346
FAX: 03-3391-8039
Eメール: info@itarucenter.com
HP: <http://www.itarucenter.com/>
発行日/平成23年8月1日
ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。
いたる広報委員まで。



目次 contents

- 01 巻頭言
- 02 法人の節電対策 被災地支援 他
- 03 各事業部から
- 04 決算報告書 (一般会計)
- 05 決算報告書 (就労会計)
- 06 さんまるしえ パン工房「PUKU PUKU」他

いたる賛助会入会のご案内

「いたる賛助会」では「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。「幸せな地域社会を作りたい」がこの会設立の趣旨であります。
年会費 105千円(何口でも可)
郵便振り込み 00107 128992
(問) 33927346 事務局 蓬田まで

この人たちへの理解と支援

社会福祉法人いたるセンター 顧問弁護士

副島 洋明 (そえじま ひろあき)



私が弁護士として知的・発達障害をもつ人たち(以下、「この人たち」といいます)の事件に携わってきた思うことは、この人たちはこの社会の中でいつも不安と寂しさを抱えて生きてきているということとです。この人たちの「障害」とは、その不安と寂しさなのだと思っています。

周囲の人たちがやっていることが自分にはできず、わからず、はじかれてとまどい、自分についていけないことを思い知らされる。それが障害だといわれてもわからない。自分の思いは伝わらない。周囲から孤立する自分の不安・寂しさを言葉であらわせない。そのうえ、その心までも人間的情感が幼稚で無邪気な人間

だなどと誤解され、傷つけられています。私は事件に携わるとき、まずこの人たちの理解することに努めています。そのためには、その人の育ち・生育史をしっかりと聞き取り調査します。育ちを知ることはその人の生きる不安と寂しさを理解することにつながります。障害は客観的現実として「受容」せざるをえません。ただ、本人が障害という現実を受け入れるには周囲との関係がとても重要になります。

人は誰もが、周囲から理解され、受けとめられ、評価されることによって、自信と責任をもつことができます。理解せず受けとめなかった周囲環境が変われば、人は、この人たちも変わります。私の経験から、障害を受容し変わっていくプロセスには、本人が理解され受けとめられているという「実感」が伴っていたように思います。

法律事務所のご案内

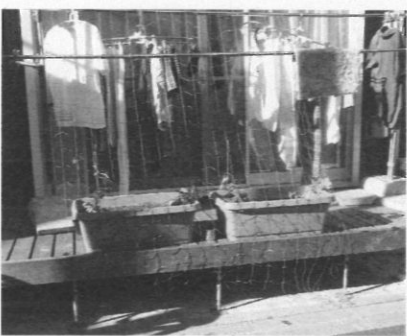
根岸いんくる法律事務所
〒116-0014
東京都荒川区東日暮里五丁目10番2号
TEL: 03-5615-5137
FAX: 03-5615-5138
E-mail: soejima@inkuru.net
<http://www.inkuru.net>

法律、人権や福祉のことで御困りの方は、お気軽にご相談ください。

節電目標25%達成に向けて

法人の各施設に緑のカーテン

3 月11日に発生した「東日本大震災」から4か月が過ぎましたが、電力不足の中間節電対策の一環として、ゴーヤのカーテン設置を利用者様のご自宅、並びに法人の施設を対象に始めました。手探りの状態で、材料調達をして実際の設置まで、紆余曲折の中で進めていくうちに、何が必要で、どうすればより良いものになるか、課題として見えてくるものがありました。



グループホームに設置した様子

そのひとつとして大きな問題になるのが、プランターを置く場所の確保です。実際に

設置場所に伺ってみると、プランターを置けるスペースが狭かったり、また二階のベランダの狭い場所だったりと思った以上に苦心しました。もうひとつは設置した場所の日当たりの問題です。日当たりが悪い場所と良い場所ではどうしてもゴーヤの伸び方に差が出てきてしまうので、なるべく日当たりのよい場所に設置したいのですが、これもプランターを置ける場所と関連することなので気を使いました。

そんな中で7月25日現在、ご利用者様のご自宅4件、グループホーム全てと阿佐谷生活園高円寺に設置を完了致しました。

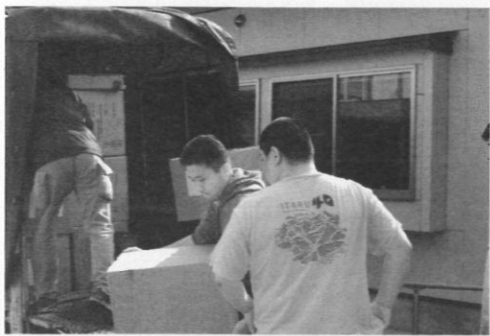
ゴーヤのカーテンは、設置後外気温と室内温度が3℃ほど違うことと、ゴーヤの実が食用になることで設置した後も大きなメリットがあります。グループホームではゴーヤの水をあげることを利用の方が楽しんでいられるとお話もいただきました。今後の課題としてはどのようにしっかりとしたメンテナンスをしていくかということが来年度以降の設置にも繋がる大切な取り組みだと思っております。

東日本大震災支援活動報告

第3回石巻支援プロジェクト実施

今回は、南相馬にも支援開始

震災直後より、定期的に被災地支援に行っています。6月3日(金)深夜から6月5日(日)早朝まで泊3日で宮城県石巻市湊町方面と福島県南相馬市方面で支援活動を行いました。支援の様子や震災後3カ月後の様子を納めた記録DVDを作成しています。視聴を希望する方は、ご連絡ください。



南相馬の施設に支援物資配送の様子



石巻の施設の作業ボラの様子

被災地支援バザー
並区内北西部に活動拠点を置く障害者団体や地域団体が参加して毎年実施している「夏まつり福祉バザー」において、南相馬支援チャリティーバザーコーナーを設け

いたるセンター 義援金
一刻も早い被災地の復興を願うとともに、協力いただいた皆様にご心より感謝申し上げます。引き続きご協力のほどよろしくお願いたします。

義援金は、杉並区経由で福島県南相馬市へ送付いたします。

733,231円
法人義援金累計
☎339217346 本部 谷山まで

マルコ
夏休みの開所時間
平日：2部制
午前 (8:30~12:30)
午後 (13:30~17:30)
休日：1部制
9:30~16:30
ご予約お待ちしております。

また、緊急時の急なご利用ではご本人が戸惑われることもあるので、ご予約のない時には是非一度ご利用下さい。

※夏休みは利用される方が多いので、契約が難しい日もございます。まずクローバーまでお問い合わせください。

さて夏休みに入り、始業式までの1カ月間、マルコでは左記の時間で開所しています。

クローバー&マルコ

短期入所クローバー(5歳~64歳)・日帰りマルコ(5歳~18歳の高校卒業まで)は、杉並区在住で知的・身体に障害をお持ちの方を一時的にお預かりしている事業所です。

主たる介護者の介護を一時的に受けられない方を対象にお預かりして日常生活の援助を行います。

クローバーと契約後からご予約をいただくことができますので、ご利用をお考えの方はご契約お待ちしております。

あけぼの作業所(多機能型事業所)

事業を5グループに再編

効率のよい支援で工賃アップ

6 月より、今までの組織を再編して就労系を三つ、生活介護事業部を二つのグループに分けました。

作業支援と生活支援を一体に見ることが出来るようになったことにより、丁寧で細かい支援を行うことが出来るようになりました。

また、メンバーが同じ仕事を繰り返し行うことにより熟練度が上がり、作業ミスや事

故も減り生産性もアップしてきています。

作業所の使命である仕事を通過して就労系平均工賃5万円を目指して今後も努力していきます。



ワーキンググループ 公園除草作業の様子

平成23年度目標

ワーキンググループ
公園清掃
名刺はがき印刷
封入・封緘
ミシン作業
目標工賃3万円

たまごグループ
ボンボン製造
目標工賃2万円

クッキンググループ
タイカレーの缶詰
季節のジャム
犬クラッカー
目標工賃1万3千円

フラワーグループ
石鹸・竹製品
目標工賃1万円~

リーフグループ
畑・水耕栽培
目標工賃1万円~

阿佐谷生活園

就労継続支援事業(B型)

BDF事業は、もしもの時に役立ちます。

区内の小中学校のすべての回収を目指して

BDFとは「バイオディーゼルフューエル」の略で、植物由来油から作られるディーゼルエンジン用の代替燃料の総称です。原料となる油脂からグリセリンをエステル交換により取り除き粘度を下げ等の化学処理を施し、ディーゼルエンジンに使用できるようにしています。

BDFグループは、メンバー6名、スタッフ3名で「原料となる油の回収」「BDFの精製・納品」等を行っています。

「原料となる油の回収」については、都内飲食店(のべ40店)の使用済み油の回収に加えて、杉並区内の小・中学校の給食使用済みの油の回収も行っています。

杉並区内の小・中学校の回収校数は、現在全体の約半数(40校)ですが、来年度には全小・中学校の給食使用済み油の回収の実現に向け、ただ今関係機関と調整中です。

また、「BDFの納品」については、最近東日本大震災



給食廃油回収の様子

後の「被災地支援ボランティアツアー」のバスの燃料として納品することが増えてきました。今後も、継続的に被災地支援をしていきたいと考えており、BDFの精製量増加の体制をとって日々活動していきます。

いたる相談室

いたる相談室長 春山 陽子

ソーシャル・サポート・ネットワーク・寺子屋
グループホーム&いたる相談室 コラボ企画

いたる相談室では、昨年12月からグループホームの新人世話人対象に、ネットワーク構築を目標とした学習会(通称 寺子屋)を月に1回開いています。

7回の学習会でお世話になった方にこの場を借りて、お礼を申し上げるとともに、地域の皆様、関係事業者の皆様、今後、協力をお願いにあがるかと思いますが、どうぞよろしくお願いたします。また、5月から月1回、少人数グループによる支援のスキルアップの学習会を開催しています。

7月で、全員参加となりました。8月からは新たな展開の学習会になるかと思えます。

すでに7回開催しています。福祉事務所の方などの話を聞き、サービスを学びながら、利用者支援に必要なネットワークを作ってもらい、適切な支援のタイミングなどを知る学習会で、現在6名の方が学んでいます。グループホームは、利用者を一人または少人数で支えています。いたる相談室も同様です。いたる相談室での支援方法や、資源

七夕まつり
~今年もやります~
8月5日16時~18時
参加費300円

利用者作品展
~お待ちしております~
8月6日13時~16時
8日10時~15時